

## 《 ベトナムコース 参加者一覧 》

都道府県	氏名	所属学校名	担当科目
千葉県	浅野 紀子	勝浦市立勝浦小学校	図画工作、国際理解
千葉県	佐々木 邦道	野田市立柳沢小学校	全教科
千葉県	柳杭田 明美	船橋市立若松小学校	(社会科主任、国際理解担当)
千葉県	山下 亮	船橋市立八木が谷小学校	全教科
千葉県	横田 礼名	市川市立幸小学校	全教科
千葉県	渡邊 貴之	聖徳大学附属小学校	全教科
千葉県	渡邊 広志	茂原市立緑ヶ丘小学校	全教科
千葉県	岡戸 一治	市原市立国分寺台西中学校	技術・家庭科
千葉県	鈴木 修	八街市立八街南中学校	社会科、(教頭)
埼玉県	梅澤 祐一	加須市立花崎北小学校	全教科(国際理解教育主任)
埼玉県	皮籠石 成久	さいたま市立下落合小学校	(教頭)
埼玉県	大島 幸	埼玉県立上尾橘高等学校	英語
埼玉県	千國 徳隆	埼玉県立蕨高等学校	国語

同行者	大山 美砂子	JICA東京(千葉県国際協力推進員)
-----	--------	--------------------

# 平成 17 年度教師海外研修（派遣国：ベトナム）実践報告書

勝浦市立勝浦小学校  
浅野 紀子

タイトル：ベトナムの生活と子どもたち  
実践教科：生活科（時間数：5 時間）  
対象生徒・学年：小学校 2 年生  
対象人数：1・2 組計 45 名

## カリキュラム案

### (1)実践の目的

- ・日本近隣のベトナムの子ども達は実際にどんなところでどんな生活をしているかを知らせる。
- ・ベトナムとの生活を比較させることで、自分たちの現在の生活を振り返らせる。
- ・これからの自分たちの生活を見直そうとする気持ちを育てる。

### (2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ： ベトナムを楽しもう。 ねらい： 導入のためベトナムについて興味を持たせること。	(1)ダッカウで遊ぼう。ベトナムのアメはどんな味？ (2)ベトナムの遊びとベトナムのお菓子であることを知らせ、ベトナムに興味を持たせる。	・ダッカウ ・ベトナムのアメ
2 限目 テーマ： ベトナムってどんな国？ ねらい： ベトナムの実態を知らせる。	(1)フォトランゲージからベトナムの国について考え、予想を話し合う。 (2)世界地図を見せ、日本とベトナムの位置を確認させ、近隣であることに気づかせる。	・収集した写真、新聞、雑誌、通貨等 ・世界地図
3 限目 テーマ： 実際のベトナムの子ども達の生活を知ろう。 ねらい： 自分たちの生活と比較して考える。	(1)プロジェクターからスクリーンを通して大きなフォトランゲージでベトナムの実際の子ども達の様子を知らせる。 (2)見て、感じたことを発表し合う。	・プロジェクター ・スクリーン ・パソコン

## 実際のカリキュラム

### 【1限目】

#### 本時のねらい

- ・「ダッカウ」の遊びを楽しむことを通して、子ども達が自然にベトナムについて知りたいと言う気持ちを沸き立たせ、次時の授業につなげる。

#### 展開

学 習 活 動 と 内 容	時 配	支援と評価(*評価)	教具・資料
1.本時学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「ダッカウ」はどうやって遊ぶのだろう。</div>	2分 (一斉)	・1人1人にダッカウがどんなモノなのかを考えさせるために、日本の羽子板の羽根とて比べさせ、違いや共通点に気づかせる。	・ダッカウ ・羽子板の羽根 ・バトミントン
2.「ダッカウ」の遊び方についてみんなで考え、話し合う。	18分 (グループ・一斉)	・これで、どんな遊びができそうなのか、たくさんの意見を聞く。	
3.みんなで考えたことをトライしてみよう。 ・外に出て、みんなから出た考えた遊び方で遊んでみる。 ・わあ、考えたより楽しい。 ・ええ、思ったよりむずかしい。 ・何か、日本の羽根つきに似ているみたい。	20分 (グループ)	・どんな遊びができるのかを考えられた班から、屋外に出て実際にトライさせ、ダッカウを身近に感じさせる。	
4.「ダッカウ」がベトナムの遊びであることを知り、その故郷に行った先生に話を聞く計画を立てる。 ・こんなスポーツをする国っていったいどんな国なんだろう。	3分 (一斉)	・本当の遊び方を知らせた上で、ベトナムのスポーツであることも伝える。	
5.先生からベトナムのお土産のアメをもらい、ベトナムへの想像を膨らます(次時へ意欲を繋げる)。 ・へーえ、このあめ日本のものとちょっとちがうよ。	2分 (一斉)	・世界地図を見せ、日本とベトナムの位置を確認させ、次時への学習に繋げる。	・ベトナムのアメ

#### 1時限目の子ども達の反応

・子どもたちは珍しいものにはくいつきがよく、はじめて見る「ダッカウ」に対して、とても興味を示した。とにかく、ありとあらゆる遊び方の意見交換をし、その後でグループごとに遊び方を工夫させてみた。始めのころうまくいかなかったグループもいろいろと試行錯誤しながらやっていくうちに、おもしろさがわかってきて、夢中で遊んでいた。

- ・いっぱい遊んだ後のベトナムの話だったので、とても親近感をもってくれたようだった。
- ・ベトナムのアメをプレゼントすると大喜びでなめ、ベトナムへの関心がより高まってきたようだ。

【2 限目・3 限目】

本時のねらい

- ・日本の近隣のベトナムの子ども達は、実際にどんなところでどんな生活をしているのかを知り、自分たちの生活と比較し見直すことができる（自分についての気づき）。

展開

学 習 活 動 と 内 容	時 配	支 援 と 評 価（* 評 価）	教 具 ・ 資 料
<p>1.本時の学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ベトナムの子ども達の生活を知り、自分たちの生活を見直そう！</p> </div>	3分 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に行った前時の授業を子ども達に想起させるために、担任はベトナムの民族衣装を纏い、前時で使った写真を見せ、ベトナムへの興味を呼び起こさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界地図</li> <li>・写真</li> <li>・民族衣装</li> </ul>
<p>2.ベトナムの様子分かる映像を見る。 日本との違いを考えながら、ベトナムの様子を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・へえ、ベトナムのお店屋さんて、歩いているんな物売っているんだ。</li> <li>・道路にいろんな食べるところがあるんだね。</li> <li>・バイクや自転車に乗っている人が多いんだね。</li> <li>・バイクに大勢の人が乗ってる。</li> <li>・子ども達も働いているよ。</li> <li>・鶏なんか、こんな風に売ってないよ。</li> <li>・子ども達が一生懸命勉強しているよ。</li> <li>・着ている服が違うみたい。</li> <li>・貧しそう生活だね。</li> </ul>	42分 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とどんなところが違うのかを考えながら、映像を見るように伝える。</li> <li>・自分たちの生活との違いに目を向けたつづきには、少々大きさにその気づきを賞賛し他の子どもにもその違いに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクター</li> <li>・スクリーン</li> <li>・パソコン</li> <li>・資料1（ベトナムの生活）</li> <li>・資料2（ベトナムの子ども様子）</li> </ul>
<p>3.映像を見て、感じたことや、日本との違いについて発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は家があってその中にお店があるけど、ベトナムは路上や、人が筆で運んでいる。</li> <li>・日本は車が多いけど、ベトナムはバイクが多い。</li> <li>・貧しそうだけどいろんな事を一生懸命頑張っている。</li> <li>・ベトナムの子ども達は勉強しながら働いている。</li> </ul>	30分 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 国ごとにいろんな文化があることがわかる（発言による）。</li> <li>* 貧しい国の子ども達でも一生懸命生活しながら、勉強していることがわかる（観察・発言による）。</li> <li>・「貧しい=悲しい」ではないことに気づかせる。</li> <li>・生きていくため、家族のために子ども達も働き、頑張っていることに気づかせる。</li> </ul>	
<p>4.本時のまとめをする。 自分たちの生活を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活で改善できることはないか考え、自分の「これからのがんばりカード」に記入する。</li> <li>・カードに書いたことを発表し合う。</li> </ul>	15分 (個人)  (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ベトナムの子ども達と自分の生活を比較した上で、自分の改善点があることに気づくことができる（がんばりカードによる）。</li> <li>・発表できた子には、拍手で激励し、意欲付けをする。</li> </ul>	これからのがんばりカード

## 2・3時限目の子ども達の反応

・実際に担任である自分がベトナムへ行って撮ってきた映像なので、子ども達は大変興味深い表情で終始その映像を見ていた。

・初めて見るベトナムの国や人々の様子を見て、いろんな疑問が出てきた。

(例)・ どうして水牛が砂を運んでいるの？

・ どうして田植えを手でやっているの？

・ どうしてあんなにいっぱいのもつを自転車で運んでいるの？

・ どうして家で鶏や豚を飼っているの？

・ どうしてベトナムの子ども達は働いているの？

これらの疑問から、みんなで話し合いいろいろな意見が出た。そして、その中でみんなが一致した考えは「ベトナムって貧しい国なんだろう」ということだった。子どもの中には、「厳しい国だと思う」という意見も出ていた。それは、「自分たちの食べるものは、自分たちで育てなければならぬ。そうしていかなければ生きていけないんだから、とても大変だと思う」と言う理由からだった。

低学年でも、内容をよく選択し目的にあった価値のある教材を用意すれば、結構深くまで理解できることを感じた。

## 授業実践して

今回2クラスで同じような授業を実践してきた(2年1組・2組を別々に授業を行った)。もちろん同じ学年なので、反応については同じようであった。でも、後から行った2組は2・3時限目を続けて指導したことで学ぶ意欲が高揚したのか、ねらいに迫る意見が多く出たことには驚いた。

生活科として授業を行ったので、最後の展開のところでは「自分についての気づき」に発展させ、今までの自分自身を振り返らせた。そして「これから自分のできること」を1人1人に考えさせて、全ての授業を終了した。その感想の中には、「自分は好き嫌いをしないようにがんばる」「物を大切にしたい」「もっと家でみんなのためにお手伝いがしたい」「もっと人の話を真剣に聞けるようにしたい」「お金の無駄遣いはしない」など個々にあっためあてを持つことができていた。これらの思いは、きっと子ども達1人1人がこの実践を通して、いろんな場面で何かしら感じ取ってくれた証ではないかと思う。

この授業から発展して、私のクラスは外国調べをすることになった。数週間でも続けば良いなと考えていたところ、2人の子ども達はすでに4ヶ月間毎日のように新聞やテレビ・インターネットで外国のニュースを調べ、帰りの会などで発表している。この事実は、23人中たった2人であっても今回の授業がきっかけとなって、外国(世界)に目を向けるようになった子どもができたことは、非常にうれしいことだった。

やはり、子ども達をいかに教師が求める児童像に近づけるかは、教師自身の強い気持ち(思い)と実践(研修)と一緒に動いていかなければ始まらない.....と言うことをあらためて感じさせてくれた実践だった。

参考資料

【資料1】ベトナムの生活理解に示した写真



\*日本との生活の違いに気づかせるフォトランゲージ(乗り物や住まいの違いなど)

【資料2】ベトナムの子ども達の様子



\* ベトナムの子ども達が、どうしてこのように働かなければならないのか、どんな気持ちで働いているのかを考えさせ、その後自分の生活と比較させ、自分自身を振りかえさせるためのフォトランゲージとした。

# 平成 17 年度教師海外研修（派遣国：ベトナム）実践報告書

千葉県野田市立柳沢小学校  
佐々木 邦道

タイトル：開発途上国訪問から見えてくるもの  
実践教科：総合的な学習（時間数：5 時間＋2 時間（JICA 出前））  
対象学年：第 6 学年  
対象人数：48 名（2 クラス合同）

## カリキュラム案

### (1) 実践の目的

- 開発途上国であるベトナム訪問の内容を報告する中で、日本との違いや共通点をみつけ、外国の文化や生活に興味を持つ。
- 開発途上国のために海外で活躍する NGO や JICA の青年海外協力隊員に着目し、援助活動から見える世界の現状と、日本の今後について考える。

### (2) 授業の構成案（次ページ表 I 参照）

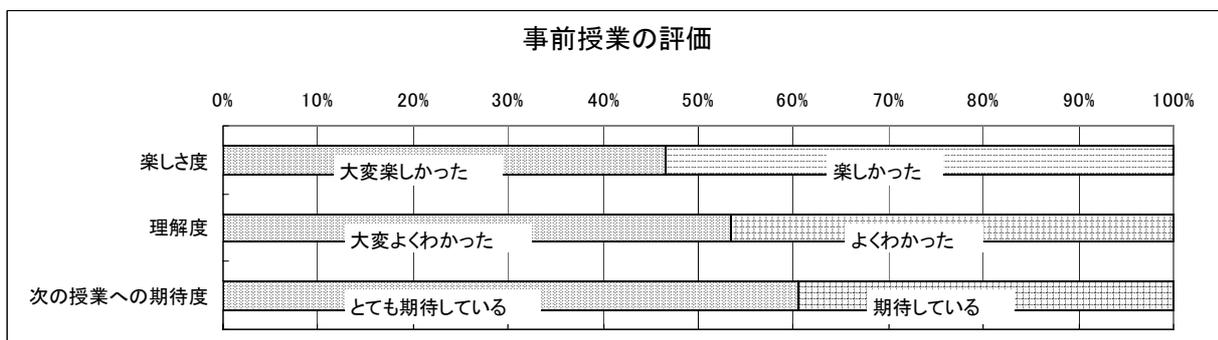
## 授業の詳細

### < 教材内容について >

#### ① 7 月 13 日事前授業

これは、JICA の第 1 回目の研修で計画した授業を 1 時間で行ったが、計画当初の「写真を使ったベトナム社会の紹介」というよりも、「ベトナムの基本的な地理、歴史」を紹介した方が良いと思い、当初の予定を少し変更して「ベトナム問題集」を作成して、授業に臨んだ。1 時間の授業時間だったので、早足で進行したが 6 年生の児童はベトナムに興味を持ってくれたようだ。

児童の感想と評価は次の通り。



【表 I 開発教育指導計画】

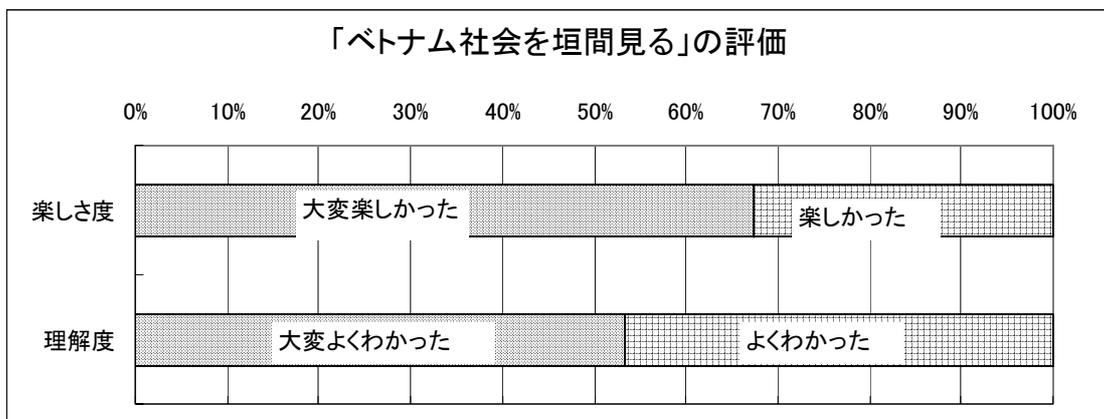
時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	<p>【テーマ】 「ベトナムの地理と歴史」</p> <p>【ねらい】 ①ベトナムの位置・気候・人口・面積を知り、ベトナムのイメージを広げる。 ②ベトナムの国の簡単な歴史を知る（占領と戦いの歴史）。</p>	<p>①ベトナムは世界地図のどの辺りにあるか ②白地図の中でいろ塗り ③インドシナ半島の意味 ④面積と人口を日本と比較 ⑤気温と降水量の比較 ⑥ベトナムは他の国に占領された歴史があるか？ ⑦ベトナム戦争はどこの国と戦ったか？ ⑧ベトナム戦争の後遺症 ⑨靴磨きをする少年 ⑩路上で物売りをする光景</p>	<p>○世界地図 ○白地図 ○「ベトナム問題集」 （佐々木作成） ○降水量グラフ</p> <p>○写真 ○写真</p>
2、3	<p>【テーマ】 「ベトナム社会を垣間見る」</p> <p>【ねらい】 ①ハノイの町と、その周辺の農村部の生活をビデオを見ながら確認する。 ②日本との共通点や違うところを知り、ベトナムに対する興味関心を高める。</p>	<p>①ベトナム到着後、JICAベトナムで話された生活上の諸注意（異国の地で気をつけなければならないこと） ②10日間の訪問地の紹介。 ③ベトナム問題を解きながらベトナム社会を見る ・ハノイ市内の交通事情 ・朝5時、近くの湖で見た光景は？ ・ベトナムの朝市で売っているもの ・ベトナムではやっているスポーツ ・本場のバナナと日本のバナナの違い ・ハロン湾、鍾乳洞での異変 ・青年海外協力隊員の下宿でのもてなし ・ベトナムのおやつと物価 ④10日間で一番印象に残っていること ・けん玉の交流 ・セーブ・ザ・チルドレン ・青年海外協力隊員 ・農村部、都市部の違い</p>	<p>○ベトナムの地図 ○プレゼンテーションソフト ○ハノイ市内のビデオ ○エアロビのビデオ ○豚の頭の写真（写真①） ○バドミントンビデオ ○バナナの種（写真②） ○ハロン湾のビデオ ○食事風景のビデオ ○ベトナムキャンディーの試食とその値段予想</p>
4、5	<p>【テーマ】 「開発途上国訪問から見てくるもの」</p> <p>【ねらい】 ①世界の「貧困」について目を向けて、開発途上国とはどういうものかを知る。 ②「貧しさ」は日常の生活でどのような弊害をもたらすかを乳児死亡率の比較から考える。 ③ベトナムにおける援助の実際を知る。 ④日本の豊かさは「食料輸入」によって成り立っていること。</p>	<p>①世界にはどれくらいの開発途上国があるか？ ②所得が低いとどんな点で弊害が出るか？ ③日本の乳幼児死亡率はどれくらいか？ ④開発途上国の乳幼児死亡率はどれくらいか？ ⑤乳幼児死亡率を下げるために、どのような援助が必要か？ （ランキングによる話し合いと発表） ア 食料を送る イ 病院造りと医者育成 ウ 予防接種や医薬品配布 エ お金の寄付 オ 環境衛生についての教育の普及活動 カ 野菜の種配布や農業活動の指導 ⑥ベトナムでの「セーブ・ザ・チルドレン」の活動内容を知る ⑦「村落開発普及員」の活動報告 ⑧日本は国連やNGOから援助を受けたことがあるか ⑨日本の食料自給率はどれくらいか</p>	<p>○途上国マップと地図（図Ⅰ） ○グラフ ○グラフ（図Ⅱ）</p> <p>○各班ごとにランキングの紙を配布して話し合う。</p> <p>○ビデオと写真（写真③～⑦） ○活動地図（図Ⅲ） ○ビデオと写真（写真⑧） ○ユニセフの資料（写真⑨）</p>
6	<p>【テーマ】 「青年海外協力隊の実際」 アフリカマラウイからの報告ー</p> <p>【ねらい】 ○青年海外協力隊員の経験談を聞き、見聞を広める。</p>	<p>○JICA国際協力推進員大山さんから報告を聞く</p>	<p>○プレゼンテーション</p>

【児童の感想から】

- ベトナムは昔、とても大変なことがあったことがよくわかりました。でも、それを乗り越えてきたことがスゴイと思いました。
- ご飯を床で食べているところがおもしろいなあと思いました。疑問に思ったことはベトナム人は何を食べているかということです。
- 食事を売る場所がほとんど道路だったのでビックリしました。私は世界の国の位置とかが全然わからなかったんだけど、今日は1つ、ベトナムの位置を覚えることができ良かったです。

② 10月18日「ベトナム社会を垣間見る」

海外研修後、ベトナムのビデオや写真をプレゼンテーションソフトに取り込みながら現地を訪れて私自身がビックリしたことを元に「ベトナム報告問題集」を作成した。第2回目の授業は、パソコンのプレゼンテーションを使いながら10日間の研修報告を行った。どのような問題を作ったかは表Iを見て頂きたい。

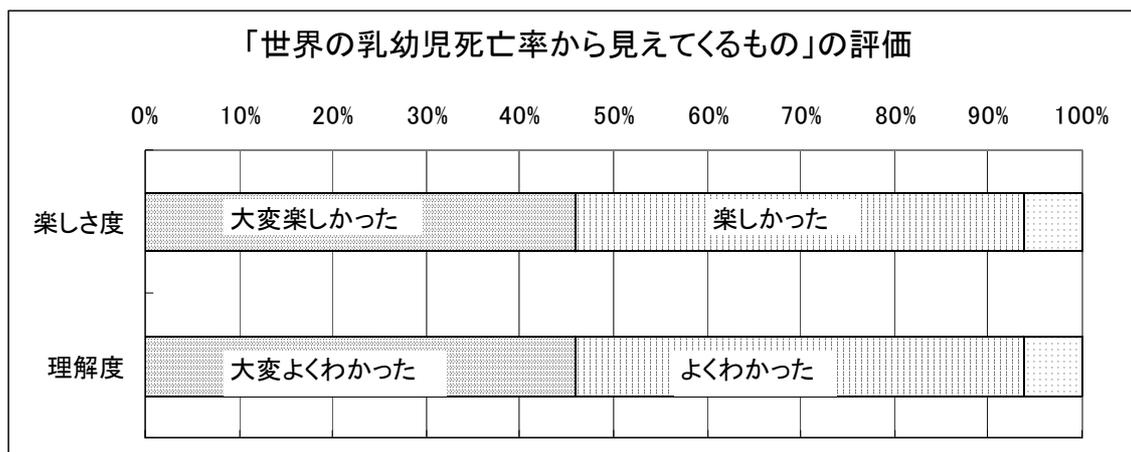


【児童の感想から】

- いろいろな写真やビデオはとても勉強になりました。少しだけ残酷な所もあったけどベトナムはこんな所なんだなあと思いました。日本と違ったところは暑さとバイクの量。事故になりやすいのはこわいけどおもしろかったです。私たちが授業でパンフレットなどを使って調べたよりもとてもよくわかりました。初めて知ったことは、日本よりもベトナムの方が物価がとても安いということです。

③ 10月25日「世界の乳幼児死亡率から見えてくるもの」

2回目の授業の最後に、私自身が一番印象に残ったことを児童に話しておいた。それは、JICAの青年海外協力隊員の活躍と、NGO <セーブ・ザ・チルドレン>の活動。日本人の若者が現地の人々と、言葉の違いを乗り越えて交流している姿に感動したからである。3回目の授業は、この2つの事業を元に「開発途上国とは何か」「乳幼児死亡率の比較」「ベトナムでの援助活動の実際」を写真・グラフ・ビデオを活用しながら進めていった。また、<ランキング>の授業を計画し「乳幼児死亡率を下げるための支援」をグループごとに話し合い、優先順位を付けて討論してもらった。この授業には、保護者の方も数名参観され、児童と意見を交流したことも良かった点の1つである。



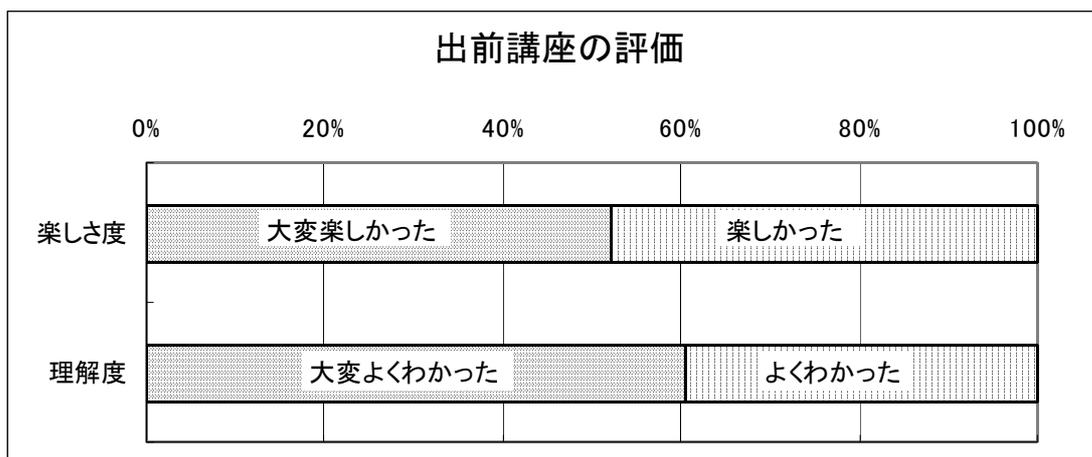
**【児童と保護者の感想】**

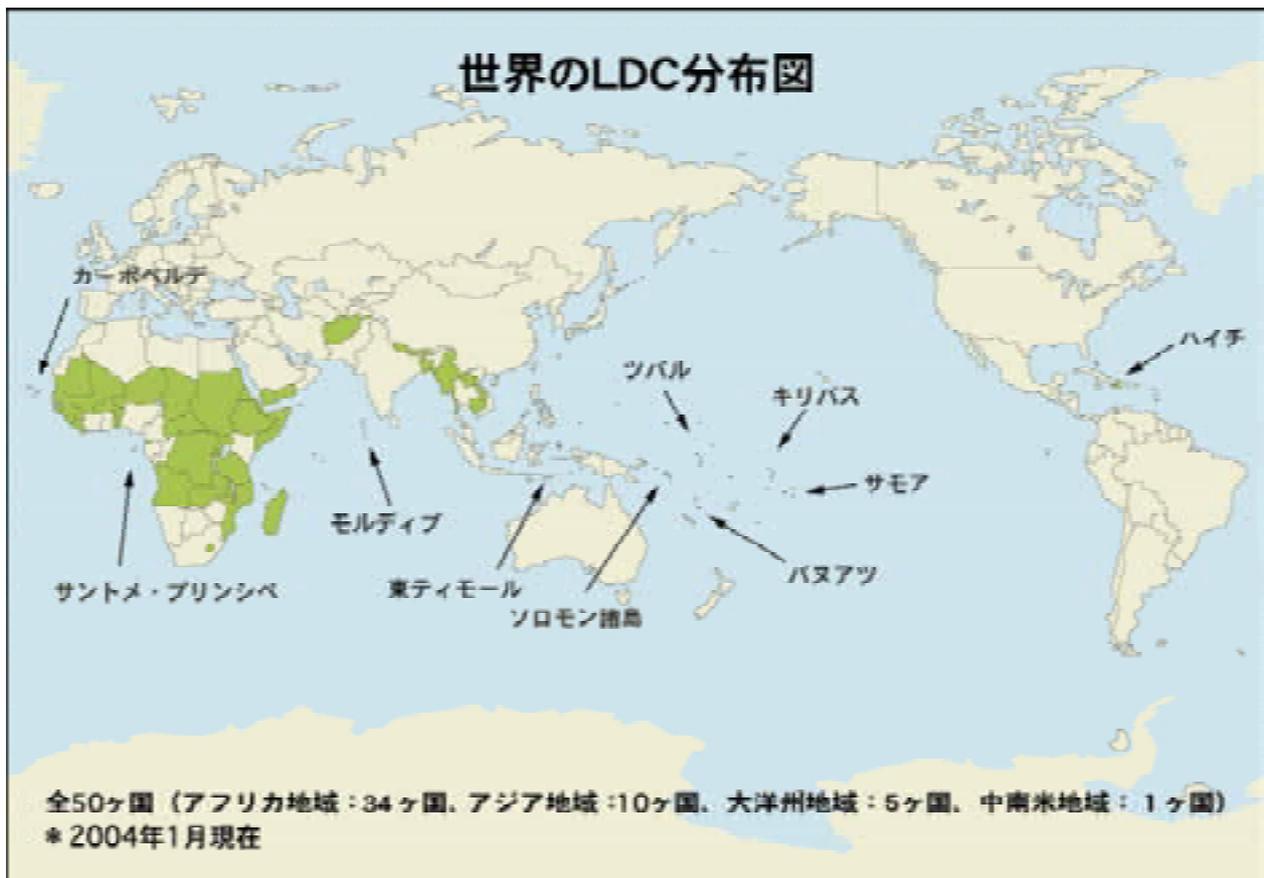
- 赤ちゃんのうちに死んでしまう子がたくさんいると聞いてとてもびっくりしました。また、日本も昔、国連から援助してもらって、給食ができたことや、新幹線を作るために援助をしてもらったことなど、全然知りませんでした。世界で苦しんでいる人がいるなんて思っていなかったのが驚きました
- 今いる世界の子供たちの数を考えると、日本の子供は本当に恵まれた環境にあることを再確認しました。しかし、その「恵まれた環境」も食糧自給率 40 %で、足下がフラフラなのだという。人を教育していく大切さは、開発途上国も先進国も同じだと思います。知っていることをまだ知らない人に伝えること、助けることは見返りなく行うことは、人種を問わず人間としてとても大切なことだと思いました。

(保護者より)

④ 10月28日 JICA 国際協力出前講座 (講師：大山)

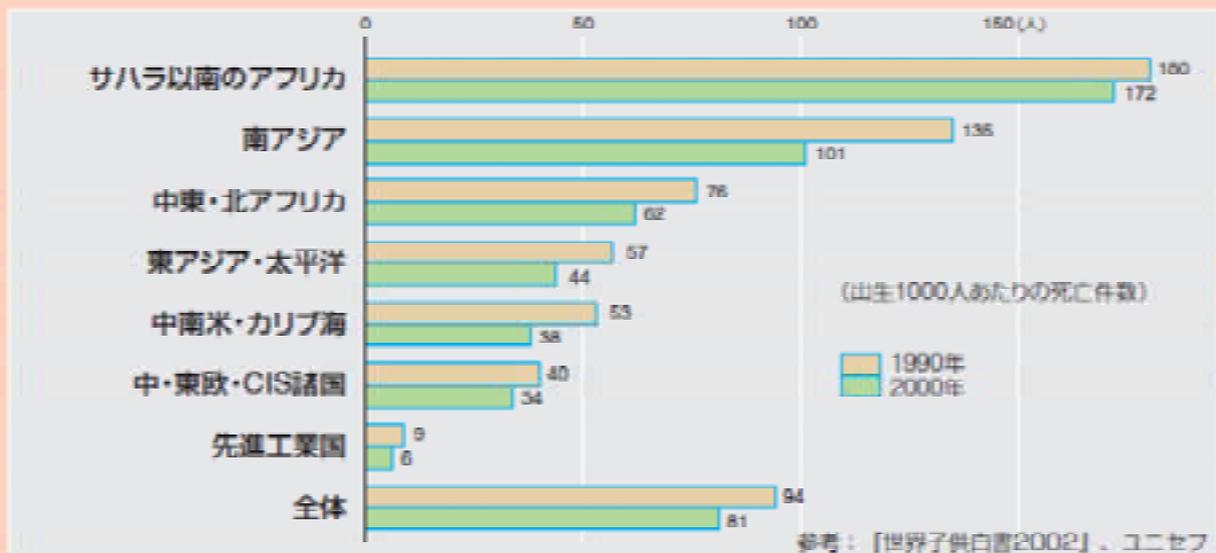
ベトナムでの青年海外協力隊員の活動や NGO <セーブ・ザ・チルドレン>の活動を勉強したので、最後は、実際の隊員の経験談を話してもらったり、質問をしたりすることが必要だと思い、授業のもまよりの意味で大山さんに出前授業をして頂いた。





【図 I : 外務省ホームページ<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/ldc/q2ex.html>】

図 4-4 5 歳未満児死亡率の変動 (1990～2000年)



【図 II : 開発教育ハンドブック・ミレニアム開発目標】  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs/handbook04.pdf>



【写真①、②】



【写真③～⑥：イエン・バイの農村風景と子供たち】



【写真⑦：セーブ・ザ・チルドレン】



■ 支援活動地

【図Ⅲ：セーブ・ザ・チルドレン支援地域】



【写真⑧：青年海外協力隊】



©日本ユニセフ協会

ありがとうユニセフ

おいしい、おいしいミルクをありがとう。私たちは毎日毎日パンと、あまいあまいミルクで昼食をすませています。私はミルクを飲むようになってから、体重がどんどんふえてきました。みんなよろんでミルクをのんで、いっしょうけんめい運動や勉強にはげんで今にりっぱな人になるように心がけます。そしてこのことをけっして忘れません。

(ある小学生の作文 抜粋)

【写真⑨：ユニセフからの援助】